

呼吸器センター呼吸器外科

- 日本呼吸器外科学会 専門医制度認定施設
- 日本外科学会 外科専門医制度修練施設
- 呼吸器外科専門医合同委員会 基幹施設



呼吸器センター
呼吸器外科
部長

青山 晃博

特色

当科は、肺癌を中心に手術療法が必要な呼吸器疾患の診療を広く行っています。全身麻酔下手術症例は 2024 年は 286 件と前年 214 件から大幅に増加しました。平均在院日数は 11.8 日と短縮傾向にあります。肺癌については呼吸器内科・外科、病理診断科、放射線治療科、放射線診断科でカンサーボードを設け患者さんごとに最適な治療法を検討しています。

肺癌手術は、4cm 前後の皮膚切開からの操作と 2、3 箇所の小切開部から胸腔鏡と鉗子を挿入して行う胸腔鏡手術が 3 分の 2、ロボット支援下手術が 4 分の 1、残り 1 割程度を開胸で実施しています。ロボット支援下手術は 2018 年に開始し 2024 年 12 月末で 122 例実施しました。小型早期肺癌の発見頻度が増加する一方、肺気腫や間質性肺炎合併の低肺機能の症例に対しては肺をなるべく残す胸腔鏡下の区域切除も積極的に行っています。CT で微小スリガラス陰影を呈する触知困難な早期腺癌などには術前 RFID タグを経気道的に留置し、術中アンテナ先端が近づくとアラーム音が発生するシステムを用いて過不足なく肺を切除することで肺を温存する新技術を導入しています。2025 年よりハイブリッド手術室で全身麻酔下にタグ留置と手術を同日に行えるようになりました。

局所進行肺癌やリンパ節転移を認める患者さんには、化学療法（免疫療法も含む）を行ってから切除する方針としています。気胸、膿胸は予期せず発症します。地域、救急部と連携して 24 時間体制で対応しドレナージ、手術など個々に最適な治療を提供しています。一部の胸腺腫などの縦隔腫瘍に対しては、胸骨切開は行わず胸腔鏡やロボット支援による縦隔腫瘍切除を行なっています。

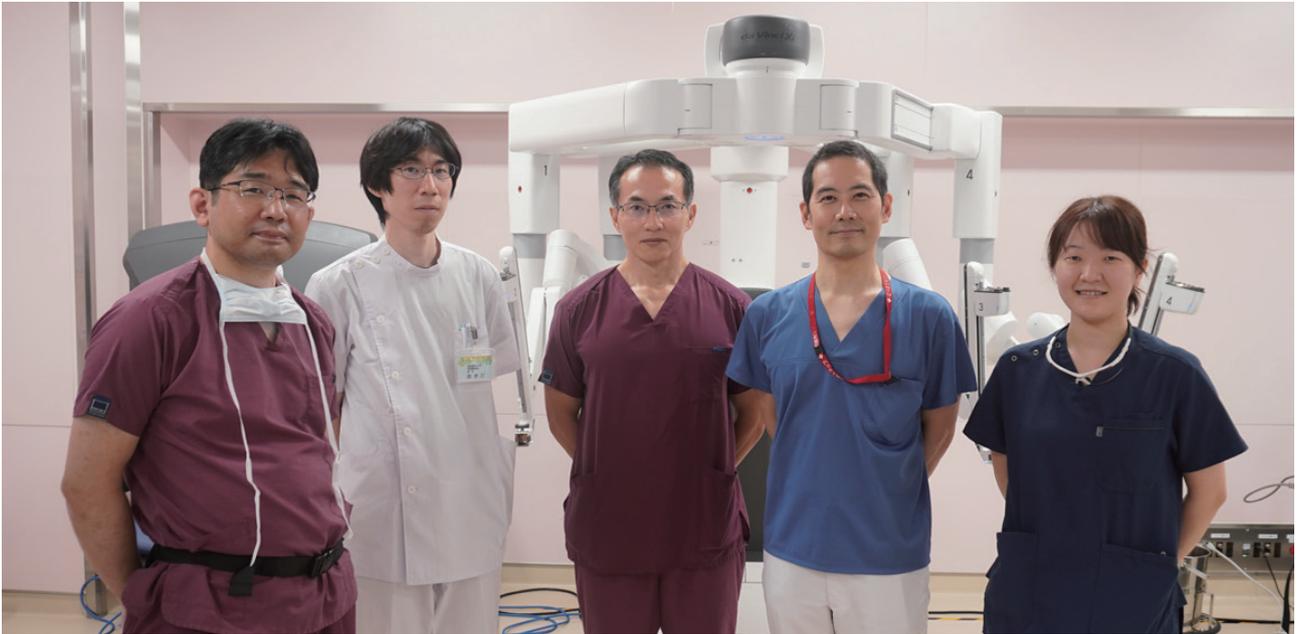
また、高齢者の自宅や施設での転倒転落などによる多発肋骨骨折などの胸部外傷も当科で管理しています。

診療内容

対象疾患	具体的傷病名
腫瘍性肺疾患	肺癌、転移性肺腫瘍、良性肺腫瘍（過誤腫など）
縦隔疾患	縦隔腫瘍、縦隔炎、縦隔気腫など
嚢胞性肺疾患	気胸、肺嚢胞症、気管支嚢胞など
感染性肺疾患（外科的治療）	膿胸、肺化膿症、非結核性抗酸菌症など
その他	胸部外傷、手掌多汗症への交感神経節切除術など

実績

入院実績（人）		全身麻酔手術件数			
年間延入院患者数	4,837	肺がん	116	転移性肺腫瘍	19
新患者数	377	嚢胞性疾患（気胸等）	52	縦隔腫瘍	15
外来実績（人）		炎症性疾患（膿胸等）	36	その他	48
年間延外来患者数	2,888			計	286
新患者数	57				
1 日平均患者数	11.9				



スタッフ

医師名	役職	専門分野	専門医認定 / 資格など
青山 晃博	部長	呼吸器疾患、肺癌、縦隔腫瘍、気胸など	呼吸器外科専門医、外科専門医日本がん治療認定医機構がん治療認定医医療安全管理者養成研修修了、ロボット支援手術プロクター、胸腔鏡安全技術認定医
山田 義人	副部長	呼吸器疾患、肺癌、縦隔腫瘍、気胸など	呼吸器外科専門医、日本外科学会指導医、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本移植学会認定医、ロボット手術コンソール術者認定、胸腔鏡安全技術認定医
高萩 亮宏	副部長	呼吸器疾患、肺癌、縦隔腫瘍、気胸など	呼吸器外科専門医、日本外科学会指導医、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、ロボット手術コンソール術者認定
岡田 春太郎	医長	呼吸器疾患、肺癌、縦隔腫瘍、気胸など	呼吸器外科専門医、外科専門医
石角 まひろ	医師	呼吸器疾患、肺癌、縦隔腫瘍、気胸など	

地域医療機関の先生方へ

呼吸器外科は呼吸器疾患の外科治療に特化して胸腔鏡手術やロボット支援下手術を中心に専門性の向上に努めております。「患者様を待たせない」をモットーに肺癌手術は当科受診の翌週までに手術を計画するようにしています。気胸、膿胸の転送、転院は当日か翌日には受け入れさせていただき、ほとんどの臨時手術は当日か翌日までに実施し早期退院に努めております。呼吸器外科専門医4名を有する呼吸器外科チームは京都では大学を除けば最大のチームと自負しております。

京都市西部、乙訓地域、京都府北部西部の「呼吸器の最後の砦」として、より質の高い医療を提供させていただきましますので、今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。